



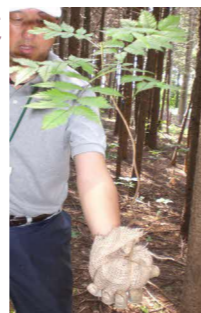
活着良好な山取り苗木の育成方法



樹木(苗木)の根は、根元に近いほど太く、養分や水分を吸収する細い根はそれよりも遠くにあります。

樹木(苗木)を、いきなり掘り取ると大切な細根がほとんど切断されてしまいます。

この状態で樹木(苗木)を移植すると、極端な場合は枯れてしまうか、枯れないまでも新しい細根が出来るまで成長が衰えてしまいます。



根鉢梱包後

そこで、自己山林に発生した苗木を活着良好な苗木に育成する方法を説明します。

- ・春～初夏に苗木(苗長50cm以下)を選び、目印にテープを付けマジックで樹種名を記載。(落葉後対策)
 - ・苗木の根元を中心にして左右8cm、直径16cm程度の円形の根鉢になるようスコップを差す。(根回し)
 - ・根鉢を壊さないようスコップで根鉢をすくい取るように掘り取る。(この根鉢内に細根を発生させる)
 - ・掘取った根鉢を麻布(直径30cm)で包み、麻布が外れないよう麻ひもで縛る。
- なお、麻布(直径60cm)と麻ひもは、ホームックや100均でも購入出来ます。
- ・苗木を元の場所に埋め戻し、上から土をかぶせる。(刺激を与えず生育環境を変えない)
 - ・このまま、秋(10月下旬位)まで、その場所で据え置く。
 - ・秋には、根鉢内に細根が多く発生し、麻布から細根が出ような状態になり「育成苗木」の完成です。

所有林に足を運び、樹木の生育状況や諸被害の確認と併せて、林内に発生した多様な樹種の苗木づくりをお試し下さい。所有林は宝の山です。【道水産林務部作成の森林づくり・先人の知恵から引用】



石狩森林室普及課職員の紹介

4名の職員が森林や林業に関するご相談やご質問にお答えします。お気軽にご相談ください。



谷口主査 長山係長 小山内課長 清水指導員

ご存じですか！

オレンジ色が有効！

テレビで放映されていた情報なので、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、スズメバチはオレンジ色が見えにくいため、攻撃性が弱くなるとの事です。

これから、山に入る機会が増えますので、ヘルメットやウエア等にオレンジ色を試してみたい方が多いのではないでしょうか！

HP公開中：<http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/densyobato.htm>

もりの伝書鳩

検索



石狩振興局森林室

普及課情報誌

令和3年春号

発行 石狩振興局森林室普及課

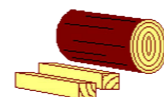
当別町栄町192-7

TEL:0133-22-2161

FAX:0133-22-0551



令和3年度重点課題の取組について



本情報誌の発行を再開して2年目を迎えました。今年も、春と秋2回の発行を予定しています。

山づくりに関するトピックスや役立つ知識など、普及課一同で作成しお届けします。さて、私たち石狩森林室普及課では、一年間の業務を計画的に進めるため、毎年「林業普及指導事業活動計画書」を作成しています。

計画では実施期間を定め、その期間内に重点的に取り組むテーマを決めています。それを「重点課題」と呼んでいます。

平成27年度から昨年度まで6年間続いたテーマの終了に伴い、令和3年度の重点課題を新たに設定しました。テーマは「地域材利用拡大の推進」です。

現在、日本国内では、戦後植栽された人工林が成熟し利用期を迎えています。

CO2の吸収源として、やや活力が落ちてきた成熟林分の木材を有効に利用しながら、若く活力に満ちた林分へとバトンタッチし、地球全体の環境保全に努めていくことは、現在、地球に生きている私たちが子孫へバトンを繋いでいく、ひとつの役割であり、実践可能な方法です。

地球温暖化防止など環境保全への貢献の仕方は、決してひとつではありません。

その、ひとつの方法が、健全な林分を守り育てることを、未来に向かって繰り返していくこと「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用と呼ばれている考え方です。

今年から2年間、「地域材利用拡大の推進」を焦点とした活動を展開しますので、ご理解、ご協力を、よろしくお願いいたします。



木造牛舎見学会

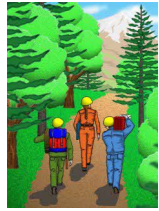
令和3年度研修等のご案内

◎市町村職員を対象とした「地域材利用促進研修」【時期:未定、場所:未定】

「森林経営計画認定システム研修」【時期:6月~12月、場所:千歳市】

◎森林所有者等を対象とした「林業講座」【時期:10月・場所:札幌市】

内容:立て木(収穫時まで残す木)の保全を考慮した、間伐木の馬搬集材を見学し、立て木の保護対策や理想的な立木配置等を検討します。



北海道産業貢献賞(森林づくり功労者)

そう まん こう ぞう
～令和2年度受賞 惣万 剛三さん～



石狩市に在住する北海道指導林家の惣万剛三さんが令和2年度北海道産業貢献賞(森林づくり功労者)を受賞されました。

当初、表彰式は札幌市で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったことから、令和2年12月17日(木)惣万さん宅において、表彰状の伝達式が行われ石狩振興局井上森林室長より表彰状と記念品が手渡されました。

惣万さんは、約45haの森林を所有し、きめ細かな各種施業を実践するとともに、平成11年から旧厚田村森林組合の理事に就任、解散の危機にあった森林組合の存続に向け尽力されました。

平成21年度からは、石狩市森林組合の代表理事組合長を努められ、施業の集約化や林業専用道の開設など森林組合の経営安定に尽力、黒字化に向け力を注がれました。

今後においても、北海道指導林家、そして地域林業振興の牽引役として益々のご活躍を期待しています。



惣万さんと井上室長



市町村名の由来と市町村の木



札幌市:「サツ・ポロ・ベツ」(乾いた大きな川)が転訛【ライラック】

江別市:「イベチマタ」、「イブツ」(大事な所の入り口、又は鮫のいる川)が転訛【ナナカマド】

千歳市:「シコツ」(大きな窪地)と呼ばれていたが、死骨に通じるとのことで改名。

1805年当時、鶴の棲息が多かった事から鶴、亀の縁起をかつぎ

千歳とした【シラカンバ、カツラ】

恵庭市:「エエンイワ」(鋭く尖った岩)が転訛【イチイ】

当別町:「トウベツ」(沼からくる川)が転訛【シラカンバ】

石狩市:「イシカラベツ」(曲がりくねった川)が転訛【ナナカマド】

厚田:「アツテコタン」(オヒョウニレの大木が山野に密生したところ)が転訛【トドマツ】

浜益:「マシュッキニ」(鱧の多いところ)、「マシケイ」(カモメのいるところ)に由来、

益毛から浜益毛さらに浜益と地名が変わった【サクラ】

北広島市:広島県人がこの地に集団移住し、本格的な開拓をしたことに由来【カエデ】

新篠津村:明治29年、篠津村(現江別市篠津)から分村したことから名付けられた【ナナカマド】

【道水産林務部作成の森林づくり・先人の知恵から引用】



オヒョウニレの葉



大気中の窒素を吸収し土壌に蓄積するハンノキ



窒素肥料は、植物の3栄養素(窒素・リン酸・カリ)の1つで、全ての植物の茎や葉の生育に欠かせない栄養成分で、葉緑体を生み出す働きを持っています。葉緑体があることによって光合成が出来ます。

窒素は大気中の8割を占めていますが、植物はガス気体の状態の窒素は吸収出来ません。

しかし、ハンノキは、根にフランキアという土壌中に住む放線菌の一種が感染して根粒という、こぶ状のものを形成し、この根粒で大気中に豊富にある窒素を吸収します。

ハンノキは、光合成で作出したエネルギーを根粒内のフランキアに与え、その代わりにフランキアは吸収した窒素をハンノキに与えるという共生関係にあります。

これと似たような共生的な窒素固定の能力はマメ科の植物も持っています。

一般的な樹木は、窒素が不足しやすいため、老化した器官では、タンパク質などの窒素を含む化合物が分解され、樹体内の他の器官に窒素が再配分されます。

秋の紅葉も同じで、紅・黄葉は、葉の中の窒素を多く含むクロロフィル(緑色)が分解され、分解された窒素が樹体内に回収されます。

残ったアントシアニン(赤・紫)や、カロテノイド(黄色)という、物質が目立ち葉の色を変えています。

ハンノキは、落葉時に葉から窒素を回収する必要性が低いため、紅葉せず窒素を多く含んだ緑色の状態で落葉し分解され、土壌中に窒素が蓄積されて行きます。

ハンノキは、他の樹種が生育出来ない栄養分の少ない場所に真っ先に侵入して生育し、その場所を他の樹木が生育出来るよう肥沃な土地に改良しています。【北海道森林物語:社団法人北方林業会から引用】



ケヤマハンノキの葉



エゾヤチネズミの被害確認について



エゾヤチネズミの巣は、イネ科草本類の繊維を集めて、直径20cmくらいの球状につくられます。

夏は地下20~30cmくらいの場所にあり、木の根を利用したりして、坑道が数本つくられます。

冬になり雪が積もると、巣はふつう地表につくられ、ネズミは雪と地表の間の空間に坑道をつくり、動き回りカラマツ等の樹皮を食害します。食害が幹を一周すると樹木は枯損します。

5月の連休明けには、苗木も一斉に芽吹き緑色に変わり、枯損木の判別が容易になりますので、造林地を巡回していただき、葉が出来てない苗木の根元を確認して下さい。

根元の樹皮が食害されていれば、エゾヤチネズミの食害です。【カッターで切ったような痕跡はウサギです】

被害を確認しましたら、地元の森林組合に連絡していただければ、職員が現地調査を行い石狩振興局長に報告されます。【北海道森林整備公社発行:野ネズミの予察調査と防除の手引き引用】